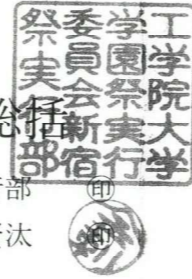


2022 年度工学院大学学園祭実行委員会新宿祭実行部

工学院大学学園祭実行委員会新宿祭実行部
部長 金刺 賢汰



1. 構成

学園祭実行委員会新宿祭実行部は部長、副部長、会計の三役に加え、渉内局、渉外局、コンサート局、広報局、資材局、企画局の計6局、3年生29人で構成されている。

2. 方針

本実行部は八王子祭実行部で培った経験を活かし、新宿祭を企画・運営する。昨年度はオンラインやハイブリッドという新たな形で八王子祭・新宿祭を開催できたものの、多くの参加団体へ満足いく発表の場を提供することができなかった。そのため今年度は、より多くの参加団体への発表の場を提供する。また、工学院大学及び新宿祭の広報を活発にすることで来場者数を増やし、本学生の成果発表の場をより活性化させ参加団体の更なる意欲向上を図ることを方針としている。

3. 目的

本実行部は11月本学新宿キャンパスで開催する学園祭である新宿祭を企画・運営する組織である。新宿祭を円滑に運営し、参加団体や来場者をともに楽しませることで、広く学生への参加意欲を喚起し、学生が学術・文化活動の成果を発表する場を企画・運営することを目的とする。また、本実行部主催の企画を運営することで参加団体の更なる参加向上を図る。加えて、本学の広報並びに工学院大学の発展に寄与することを目的とする。

4. 活動内容

a) 新宿祭全体会議

学園祭を参加団体、来場者をはじめとした全ての方々に満足していただく学園祭を創るため、実行部内で意見交換を行った。意見交換の場としたことにより意識統一・向上を図った。また活動状況を情報共有したことにより本実行部全体での活動を本実行部全員が把握することができた。

b) 学園祭全体会議

別々のキャンパスで活動を行っている八王子祭実行部と新宿祭実行部の間での情報を共有すると共に、ディスカッションを行ったことで本委員会全体での意識統一・向上を図った。また学園祭実行委員会として、両実行部での問題を全体で解決することを目的とした。しかし回数が多く行えなかったため、より定期的な全体会議を行うことが課題となった。

c) 第60回八王子祭

八王子祭に参加する学生団体の学術・文化活動の場を提供し、本学の広報及び発展に寄与することを目的とし、10月に八王子キャンパスにて八王子祭を企画・運営を行った。今年度は八王子祭が4年ぶ

りに開催され、コロナ禍を明け初の八王子祭の開催となった。新型コロナウイルスの影響により例年通りの八王子祭の運営とは異なる部分もあったが、学園祭の目的を達成しつつ開催することができた。この経験を活かし、より引き継ぎを行い、円滑な運営をより強固なものとするのが課題となった。

d) 第73回新宿祭

キャンパス全体には、毎年掲げているテーマである「和」の世界観に来場者・参加団体ともに普段とは違ったキャンパスの姿へ、学園祭特有の雰囲気を引き込むため、装飾を施した。加えて本学新宿キャンパスは閉鎖的空間であることを最大限活用し装飾を行った。新型コロナウイルスの影響で情勢が不安定であったため、形態が確定することが遅れてしまったことにより、事前に学園祭の規模を想定し、装飾の個数や規模も考慮し日程を組むことが課題となった。

アトリウムに特設ステージを設置することで、新宿祭を大いに盛り上げるための象徴、いわば学園祭の顔といえる存在とした。しいては学生の学術・文化活動の発表の場のさらなる発展、キャンパス周辺地域との交流、幅広い年齢層の方々の来場など、様々な要素で盛り上げ、新宿祭の認知度とブランド力を向上させた。また昨年度からアトリウムが大幅にリニューアルされ、キネティックウォール、立体音響、映像、照明設備が設置された。アトリウムではアーティストライブと文化会主催による声優トークショーも実施したことで、最新技術を駆使して来場者に感動を与えた。また学生層に人気のあるアーティストや芸能人を招致しパフォーマンスを行っていただいたことで、多くの学内生や来場者に足を運んでいただき、新宿祭を楽しんでいただいた。

一階東口付近の階段では、ビルキャンパスという特徴を活かした企画である鉄人29階を実施した。アトリウムステージにて、家庭用ゲーム機を使い、来場者の人に盛り上がり楽しんで頂くゲーム企画ではYouTuberの方を招致し、実況をして頂いたことで、ゲームを楽しむことだけでなく、観覧席の方々への盛り上がりにもつながった。来場者には新宿キャンパスの特徴とその魅力を体感してもらおうと共に、工学院大学に興味・関心を引いたことで、これらの企画を通し、企画の参加に繋げ、新宿祭を活性化させた。

エステック広場では模擬店を開催すると共に、模擬店ランキングを実施した。これは模擬店を出店する参加団体が切磋琢磨したことで、新宿祭をより活気のあるものとした。ほかにも参加団体の発表をみながらキャンパス内を回る新宿祭堪能スタンプラリーを実施したことにより、来場者には様々なコンテンツを回ってもらおうきっかけを作った。これにより多くの来場者が様々な学生の発表の場に足を運んで頂き参加団体と来場者の双方に満足して頂いた。さらに模擬店では地域交流の一環として、西新宿を拠点とした十二社商店街の方々にも出店して頂いたことで新宿祭の盛り上がりにつながった。

広報活動は更なる拡充を図り、新宿をより広く多くの方々に周知させていただき、来場につながった。今まで来ていた来場者や近隣住民の方々を取り戻し、さらに今まで以上の飛躍的に向上させるため広報活動へさらに力を入れた。新企画を立案し、参加者の方々を広報活動の参加者とし一般の方々にさらに新宿祭の周知をさせ、新宿祭をさらに学内生から、一般の方々から盛り上げることにつながった。その結果、新宿祭のさらなる広報活動・周知として、学園祭グランプリでは「一般いいね賞」を受賞した。